

(財)日本医療機能評価機構認定病院

地域医療支援病院

盛岡赤十字病院地域医療連携室広報誌

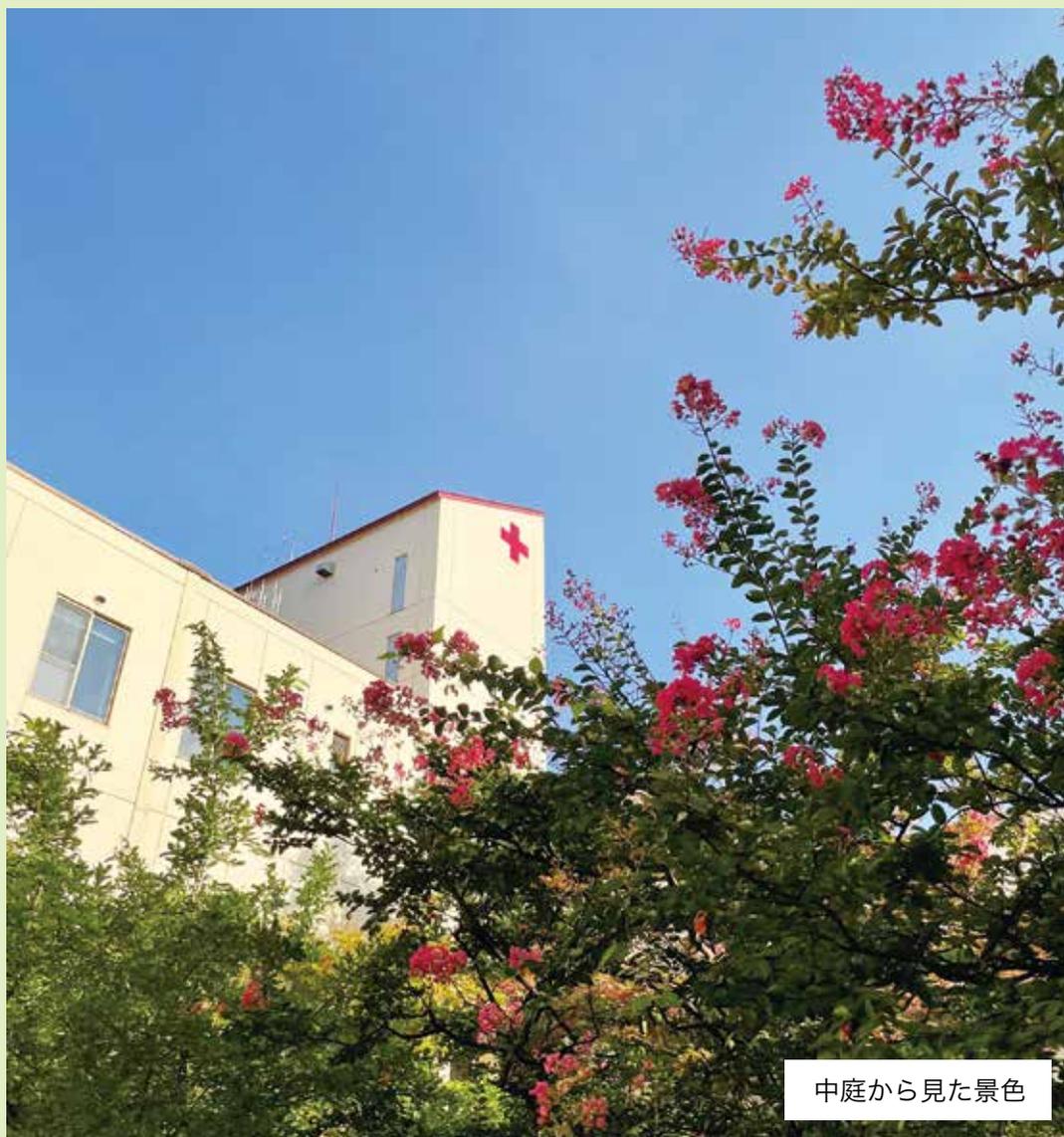


LEAF

令和4年11月
第45号
盛岡市三本柳 6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 久保直彦

<基本理念>

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、
みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



中庭から見た景色

特集

マイナンバーカード読み込み装置の設置について
選定療養費の料金改定のお知らせ

連載

シリーズ認定看護師（皮膚・排泄ケア特定認定看護師）

マイナンバーカード読み込み装置の設置について

当院では令和4年8月1日より、1階正面受付に顔認証付きカードリーダーを設置いたしました。このカードリーダーでマイナンバーカードを読み込むことにより、「健康保険証」「限度額適用認定証」など、健康保険の資格確認ができます*1。ただし、健康保険証以外の各種医療受給者証や医療証などは、顔認証付きカードリーダーでの資格確認ができません。別途、窓口で確認させていただきますので、ご提示ください。

また、現在のところ当院では、特定健診情報*2および薬剤情報*3の閲覧には対応しておりませんので、あらかじめご了承ください。

マイナンバーカードをお持ちでない方（マイナンバーカードの保険証利用にかかる申込が未了の方を含む）は、これまでどおり窓口にて健康保険証の確認をさせていただきます。

- ※1 マイナンバーカードを健康保険証として利用する際には、事前申込が必要です。詳しくは、厚生労働省やマイナポータルホームページをご覧ください。
- ※2 40歳から74歳までの方を対象に、メタボリックシンドロームに着目して行われる健診結果の情報。
（75歳以上の方の健診情報は後期高齢者健診情報）
- ※3 医療機関を受診した際の過去の診療情報および医療機関で投与されたお薬や薬局等で受け取った過去のお薬の情報。



選定療養費の料金改定のお知らせ

令和4年度の診療報酬改定に伴い、10月1日より「選定療養費」を下記のとおり改定いたします。紹介状持参による受診につきまして、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

● 初診時選定療養費

他の医療機関からの紹介状がなく、直接受診した場合

現行 **5,500円(税込)** ⇒ 改正後 **7,700円(税込)**

● 再診時選定療養費

当院から他の医療機関に紹介となった患者さんが、引き続き当院の診療を希望される場合

現行 **2,750円(税込)** ⇒ 改正後 **3,300円(税込)**

● 選定療養費を徴収しない方

- ① 自施設の他の診療科から院内紹介されて受診する患者
- ② 特定健康診査、がん検診等の結果により精密検査受診の指示を受けた患者
- ③ 救急医療事業、周産期事業等における休日夜間受診患者
※急を要しない時間外の受診、患者の都合により受診する場合は認められない
- ④ 外来診療から継続して入院した患者
- ⑤ 地域に他に当該診療科を標榜する保険医療機関がなく、当該保険医療機関が外来診療を実質的に担っているような診療科を受診する患者
- ⑥ 治験協力者である患者
- ⑦ 災害により被害をうけた患者
- ⑧ 労働災害、公務災害、交通事故、自費診療の患者
- ⑨ 公費負担医療制度の受給者（こども医療、ひとり親医療の受給者は徴収対象）
- ⑩ その他、保険医療機関が直接受診する必要性を特に認めた患者



選定療養費とは

「初期はかかりつけ医を受診し、高度・専門医療・入院等が必要な場合は、特定機能病院及び地域医療支援病院に紹介してもらう」という医療機関相互の機能分担と連携の推進を目的として、制定された制度です。「特定機能病院」及び「200床以上の地域医療支援病院」を紹介状なしで受診する場合に、医療費とは別にお支払いいただく費用です。

皮膚・排泄ケア特定認定看護師 毛利 明子

私は入職後、泌尿器科病棟と外科病棟で勤務し、オストメイトの看護を経験しました。ある時、1日に何度も便が漏れて痛みを伴う患者さんから「こんな体、もう嫌だ」と言われたことがありました。その時、「自分にもっとストーマケアの知識があれば…」と強く感じ、2010年に皮膚・排泄ケア認定看護師スクールに入学しました。

その後、2017年に特定行為研修を修了し、褥瘡のデブリードマンや局所陰圧閉鎖療法が実施できるようになりました。2012年に“ストーマ外来”を立ち上げ、2016年からは“WOC外来”に名称を変更し、ストーマケアの他に、褥瘡や手術創のケア、がん性皮膚潰瘍のケア等、年間延べ300件程対応しています。

WOC外来では、ストーマのトラブルを誰に相談して良いのかわからず、市販の軟膏を塗って対処していたという方や、便漏れが続いて真っ赤に皮膚がただれても誰にも相談できず自宅に引きこもっていたという方の対応や、ストーマを保有し化学療法を受けている方から「あと何年生きられるんだ」、「ストーマさえなければ…」と、辛さを訴えられることもあります。ストーマ以外では、何年も前から胸のしこりに気付いていたけれど受診できず、腫瘍が皮膚に飛び出してから受診した方もいました。その方の心情を理解し、「怖かったですね。よく受診しましたね」と声をかけると、その方は「そんな風に言ってもらえるなんて思っていませんでした」と言い、涙を流しました。

このような経験から、患者さんがいつでも相談できるような環境を作ることと、皮膚だけではなく、その方の全体像を捉え心情や辛さを理解し対応することが重要であると学びました。

現在、皮膚・排泄ケア特定認定看護師は2名在籍しており、院内外で活動をしています。皮膚・排泄ケア分野に関してご相談がありましたらいつでもご連絡ください。

